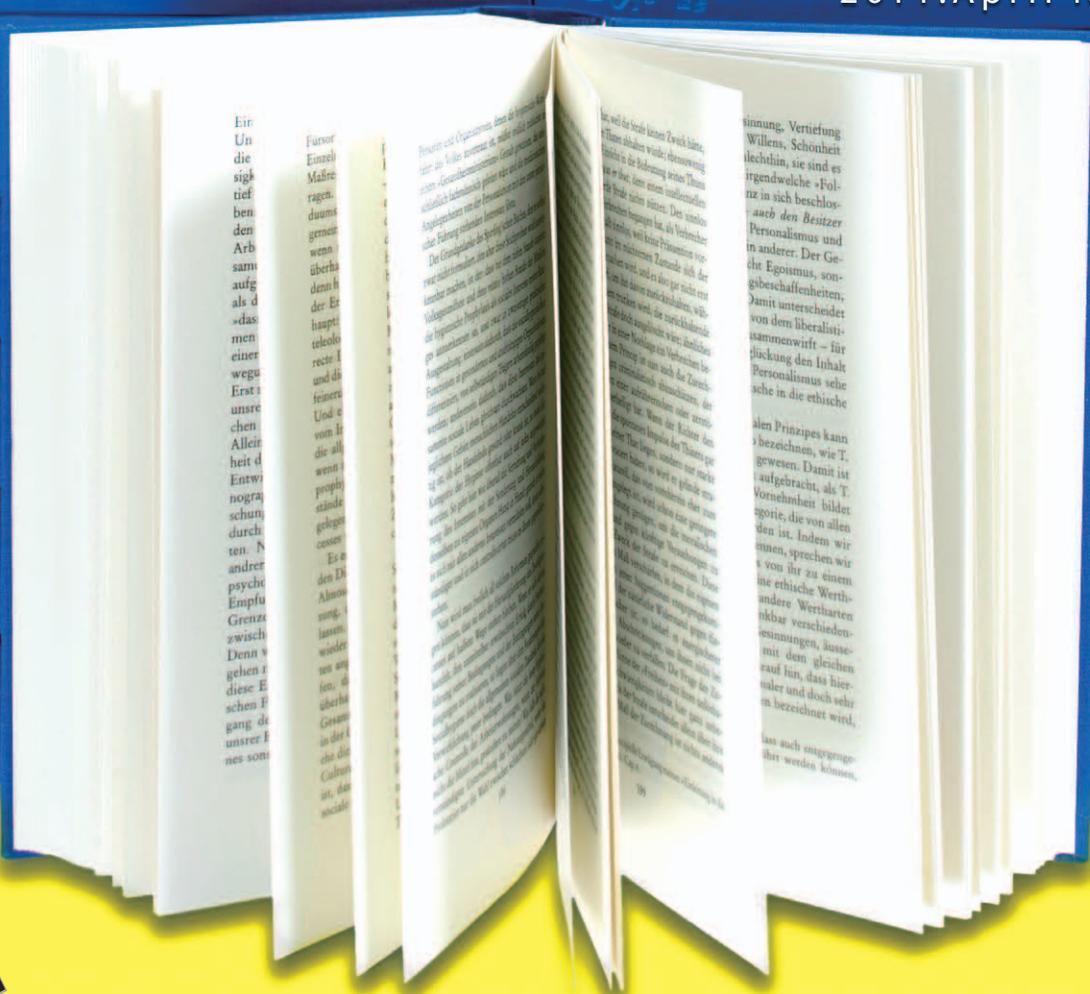




# 図書館報

SEINAN GAKUIN  
UNIVERSITY  
LIBRARY BULLETIN  
2011.April No.170



## 新入生にイチ押し of 1冊

- 1 「 commonsとしての図書館」  
図書館長 尾上 修悟
- 2 **ブックレビュー**  
「脳のなかの幽霊、ふたたび：見えてきた心のしくみ」  
言語教育センター長 文学部 外国語学科 英語専攻 教授 川瀬 義清  
「不思議なくらい幸運がやってくる3つの法則」  
情報処理センター所長 商学部 経営学科 教授 吉武 春光  
「不確かさの中を：私の心理療法を求めて」 学生相談室 カウンセラー 入濱 直美  
「歴史家の書見台」 大学博物館 学芸員 安高 啓明  
「簡素な生活：一つの幸福論」 大学図書館 事務部長 伊藤 邦厚  
「大学時代しなければならない50のこと」 図書館報 副課長 梶木 秀之
- 3-4 **世界の図書館 ラーニング・commons編**  
ニューヨーク大学 ポスト図書館 図書館情報課 山下 大輔  
ケロッグ図書館(カリフォルニア州立大学 サンマルコス校) 図書館情報課 相田 芙美子
- 5-6 **図書館の奥**  
図書館情報課 小副川 明子
- 7 **蔵書ギャラリー no.11**  
「ゲオルグ・ジンメル『ズールカンプ版全集』(全24巻)  
商学部 経営学科 教授 佐々木 武夫

1980年代半ばから展開された情報技術革命の下で、インフォメーション・コモンズ(IC)という言葉が、米国を中心に用いられてきた。それは、抽象的には情報の潜在的集合体を表すもので、情報ネットワークで構成された仮想的なグローバル・コモンズを指す(Beagle[4]永田[1])。その中味は、次の3つのレベルで捉えられる。第1に、最広義のレベルの文化的コモンズ。これは、社会的・政治的・法制的・経済的な事柄を包み込むもので、表現の自由や知識の社会的共有を可能にする。第2に、知識のデジタル・メディアの連続体として現れるヴァーチャル・コモンズ。そして第3に、デジタル領域にアクセスできる場としての物理的コモンズ。ここに図書館が位置付けられる。このように、ICは、3つの大きな枠組で構成される。ただし、各枠組は分断されるのではなく相互に結びついている。

ICは、学生のニーズを処理する環境を提供することで、かれらを引付けものとして機能した(Diana[5])。それは確かに、図書館に向かう学生の確保に大いに貢献した。ただ、ここで注意すべき点は、ICが、単に来館者の確保を目指すことに終始したのではない、という点であろう(永田[1])。ICの目的は、あくまでも学生の学習をサポートするためのサービスを改善・向上することにある(Diana[5])。それは、学生に対して社会との相互作用を意識させる一方で、かれらの共同学習の作業にも貢献する。要するに、ICは、ラーニング・コモンズ(LC)としても機能する必要がある。このLCモデルは、デジタル世代の学生に対し、機能的にも空間的にも、図書館や情報技術などのサービスをインテグレートするものとして現れる(McMullen[7])。ここに、一連のサービスを1つの場所で提供する図書館の存在意義を認めることができる(Spencer[10])。このLCのスペースとしての図書館は、学習そのものの姿を変えていく可能性を示している。実は、昨年9月に本学で開催された私立大学図書館協会主催の全国的シンポジウムの際に、本学が、共通論題として「ラーニング・コモンズとしての図書館」というテーマを掲げたのも、以上のような背景を考慮したからであった。

ところで、コモンズはそもそも、歴史的には誰でも自由に利用できる共有地を意味した。しかしそれは、19世紀前半にイギリスで「コモンズの悲劇」というパンフレットが表されて以降、次第に消滅する運命をたどる(Hardin[6])。すべての人が自身の利害を追求することにより、コモンズとしての共有資源は使い尽されるとみなされ、それは、エンクロージャーとしての私的所有地に転換されてしまった。では、資源を共有するものとしてのコモンズは、その意義までも失ったのか、と云えば決してそうではない。否、そ

れどころか、今日、コモンズは再認識され、その意義が見直されている。例えばC.M.ローズは、「コモンズの悲劇」に対するアンチ・テーゼとして「コモンズの喜劇」説を唱え、その意義を高らかに宣言した(Rose[9])。そこでは、ある種の物は、民間の手によってのみ所有されてはならず、それは、公的に開放されるか、もしくは少なくとも公的権利に従うべきことが強調される。情報のような資源は、まさにその典型であると言えないであろうか。

今日、情報のエンクロージャーが新たに進んでいると言われる(永田[2])。共有されるべき情報が、それにより排他的に占有されてしまう。情報社会は本来、すべての人が自由に情報資源にアクセスできることを目指すはずであった。しかし現実には、アクセスが可能な人とそうでない人との格差が、情報デバイドとして拡大している。それはさらに、ライセンスによる囲い込みによって加速された。情報を共有する権利はますます脅かされている。情報の電子化の進展により、図書館がそのアクセス権をライセンスするだけになれば、情報の占有化を防ぐことはできなくなる。自由な情報流通を促すはずのデジタル化が、逆にそれを阻害するという「デジタル・ジレンマ」にいかに対抗するか。図書館が、情報を共有できるコモンズとして運営されることは、このジレンマから脱け出る重要な手段になるのではないか。もともと図書館は、人類の記録の宝庫としての役割を果たしてきた。それはまさしく、文化的コモンズに対する公共のアクセス・ポイントであった。そして、共有資源としての情報は、E.オストロムが説いたように、相互依存的な集団により共同管理されねばならない(Ostrom[8])。「リヴァイサン」の第2巻で「コモンウェルス」を論じたT.ホブズも、同意と和合に基づく一大群衆の相互の信約がコモンウェルスを定義させるものである点を謳っている(ホブズ[3])。排他的占有が横行している現代世界において、図書館こそは、このコモンズに根ざしたコモンウェルスを実現させる場として存立し続けねばならない。

#### (参考文献)

- [1]永田治樹「大学図書館における新しい「場」—インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ」『名古屋大学附属図書館研究年報』2008年
- [2]永田治樹「図書館とインフォメーション・コモンズ」『情報管理』2010年10月
- [3]T.ホブズ著、水田洋訳『リヴァイサン(二)』改訂版、岩波書店、1992年[開架2階 091/133/5-2-2]
- [4]Beagle,D., "The learning commons in historical context", *Annals of Nagoya University Library Studies*, 2008.
- [5]Diana,G.&Oblinger ed., *Learning spaces*, Educause e-book, 2006.
- [6]Hardin,G., "The tragedy of the commons", *Science*, dec. 1968.
- [7]McMullen,S., &Williams,R., "US academic libraries: today's learning commons model", *PEB Exchange*, 2008.
- [8]Ostrom,E., *Governing the commons*, Cambridge univ. press, 1990. [開架 334/6/19]
- [9]Rose,C.M., *Property persuasion*, Westview Press, Inc., 1994. [開架 324/23/11]
- [10]Spencer,M.E., "Evolving a new model: the information commons", [www.emeraldinsight.com/0090-7324.htm](http://www.emeraldinsight.com/0090-7324.htm). (参照2011-04-01).



# 新入生にイチ押し<sup>★</sup>の1冊



## 『脳のなかの幽霊、ふたたび』 ：見えてきた心のしくみ』

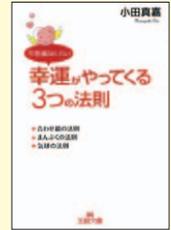
V・S・ラマチャンドラン著  
角川書店 2005年  
(開架3階 491/371/154)  
言語教育センター長  
文学部 外国語学科 英語専攻 教授 川瀬 義清



「幻肢(げんし)」という現象を知っていますか。例えば、交通事故で片足を無くした人が、無くなったはずの足がかゆくてたまらない。掻こうにもその足は無いので、掻くことも出来ない。無いはずのものがあるように感じてしまう。このような現象は脳の働きが生み出したものです。著者のラマチャンドランは「神経科学(脳の研究)」というものを、一般の人にもっと身近に感じてもらえるようにとの願いからこの本を書いています。脳が引き起こす様々な現象をとりあげ、脳がどんなに複雑で、不思議な存在かを示しながら、芸術、言語、哲学などの問題が脳の働きとどのようにかかわっているかを私たちに興味深く解き明かしてくれます。

## 『不思議なくらい 幸運がやってくる3つの法則』

小田真嘉著  
三笠書房 2009年  
(開架2階 159/0/560)  
情報処理センター所長  
商学部 経営学科 教授 吉武 春光



人生は、いつ何時、困難に遭遇するかもしれません。自分は何をしただいのか途方にくれることもあるでしょう。自分は順調さと思っている人も、いつの間にか、閉ざされた狭い世界の中でループしているかもしれません。本書は、色々和心理面で指摘されていることを整理し、明快な3つの考え方を示しています。合わせ鏡の法則、まんぶくの法則、気球の法則。この3つは、とても簡単なことばかりです。すぐに実践できます。心が明るく、温かく、軽くなります。この本は文庫なので、なんと本体価格552円! 心に何か重いものを感じている人は勿論ですが、順調と思っている人も、是非、ご一読ください。自分の気持ちを変えると世界が変わる。

## 『不確かさの中を』 ：私の心理療法を求めて』

神田橋 條治・滝口 俊子著  
創元社 2003年  
(開架2階 146/8/526)  
学生相談室 カウンセラー  
入瀨 直美



「不自然なものの最大のものはね、直線なんです」私は、この件を伝えるためだけにこの本をセレクトしたかもしれない。精神科医神田橋 條治は「自然界には雲間から漏れる光ぐらいしか直線はない、だから直線は現代人の脳に鮮烈すぎて、人間を疲れさせる。回避するには感覚をマヒさせるしかない」直線的な人生を求めたがる社会を連想してしまう。その視座に感動しながら、カウンセラーの私は実にシンプルに解釈した。自然界に生きる私たちは、まっすぐに生きることなんて考えなくていい、それは自然の理にならなくていい。おおいに曲線の人生を生きたいんだという発見。あれやこれやとスケールの大きな視座に立つ論述が展開していく。大学生生活入りの皆さんに必読です。

## 『歴史家の書見台』

山内昌之著  
みすず書房 2005年  
(開架2階 204/0/154)  
大学博物館 学芸員  
安高 啓明



「読書は死にかかった技術」といわれるなかで、本書で取り上げられた小説や研究書は自然と読みたくなります。I.イスラム社会を知るために、II.帝国とはなにか、III.歴史と教育、IV.アジアのなかの日本、V.楽しみの読書から構成される本書は、著者が紹介してきた書評をエッセイ調にまとめ直したものです。専門領域にとらわれない姿勢で記述されているため、一般目線にたつたわかりやすい内容となっています。また、活字を読む楽しさが伝わるとともに、思わず手にとりたくなる、本と人をつなぐかけ橋となっています。人が成長するには物事に興味をもち、知ろうとすることから始まります。本書にはこうした機会を提供するエッセンスが多分に詰まっています。

## 『簡素な生活:一つの幸福論』

シャルル・ヴァグネル著  
講談社 2001年  
(開架2階 159/0/348)  
大学図書館 事務部長  
伊藤 邦厚



まさに監修者の前書きにあるように、書名を見て当世のスローライフ、田舎暮らし推奨の本と思いにした一冊です。読み始めると、精神や思想、言葉、家庭、教育など日常的なテーマにした簡素の本質が論じられた書で、思わず読み通した本です。書かれている背景は、1895年、19世紀末の時代ですが、文明が発達しスピード化し豊かになった今日の社会で欲望の膨らむ複雑化した生活において、人としての生き方に深い示唆を受け、人間の幸福の基盤が説かれています。成長とともに、社会経験を重ねる人生の節目々に読み返せば、おかれている状況で味わいが縦横に広がり、足を地に確りと着け背筋を伸ばした生活を送る指針となる思いがします。百十数年前の書でありながら、心身ともに人間らしい在りかたを、色褪めることなく新鮮に追求する本として紹介します。

## 『大学時代しなければならない 50のこと』

中谷彰宏 著  
PHP文庫 2001年  
(開架2階 159/7/61)  
図書館情報課 副課長  
梶木 秀之



新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。皆さんは大学でどのようなことをしたいと思っていますか。中には4年後の具体的な目標を持った人もいますが、これから考えようという人やよくわからないという人が大多数だと思います。この本は、そのような皆さんへ、明日のために「大学時代しなければならない50のこと」を示し、大学生活を送る上で大きなヒントを与えてくれます。大学時代はほとんどの人にとって人生の中で自由に過ごせる唯一の貴重な期間です。これからの人生に大きな影響を与える人や本との出会いを自ら求めて、この大切な時間を有効に使ってほしいものです。みなさんもこの本の著者同様、自分の夢を実現するためのチャンスを卒業までにぜひ掴んでください。

# 世界の図書館

[ラーニング・コモンズ編]



ニューヨーク大学 ボブスト図書館

New York University Bobst Library  
70 Washington Square South, New York, NY 10012, United States <http://library.nyu.edu/>

図書情報課 山下 大輔

ラーニング・コモンズ研究の一環として、ニューヨーク大学図書館を2010年9月に訪問しました。ニューヨーク大学は、50,000人近くの学生を擁する私立の総合大学でキャンパスは多くの市民で賑わうワシントン・スクエア周辺に分散しています。

図書館は、12のフロアで構成されており、約400万冊の蔵書規模を誇ります。そして、学内者は24時間の利用が可能です。館内は、基本的に食べ物の持込は禁止、飲み物は蓋がついていればOKです。ただし飲食専用スペースも確保され、サンドイッチとスナック、ドリンクの自動販売機が設置されています。図書館の周辺でも、レストラン、カフェを探すのには苦労しませんので、図書館での長時間の学習が可能です。

学習、研究サポートのために数多くのサブジェクトライブラリアンが雇用されています。化学、数学、歴史といった約70の専門分野に分かれ、高度なレファレンスを提供しています。私が訪問した際は、東アジアコレクション担当のライブラリアンが対応してくれました。来館しての相談も可能ですが、チャットによるレファレンスサービスも提供しています。ライブラリアンは、専用のデスクにいる際にはチャットへログインし、利用者からの質問があった際には、リアルタイムで回答するようになっています。利用者側からも自分の希望するライブラリアンが在籍しているのか、会議中なのか休暇中なのか確認できるようになっています。数多くの相談に効率よく回答するためのシステムです。

マルチメディア用のサポート体制も充実しています。館内には目的別に3つのスタジオがあり、ポスタープリンター、ドラムスキャナーといった機器の利用、資料のスキャンやプレゼン資料作成のサポート、統計ソフトなどの利用サポートが提供されています。

学生はもちろん、教員が講義で利用する映像資料、音声資料などを作成、編集する際にも利用されています。これからの学習には、映像・音声資料の利用は欠かせないので利用も増加しているそうです。

また、館内には、広い作業スペースが確保されたPC、グループワークスペース、PC教室などが整備され目的に応じてサポートを受けながら利用が可能です。また、貸出用のノートPC及び無線LAN環境が整備されており、各閲覧機から文書の作成、インターネットの利用が可能です。館内には、PCを整備した講習室も整備され、ライブラリアンによる資料検索演習、データベース講習会などが連日開催されています。

電子資料も充実しています。90,000タイトル以上の電子ジャーナル、約60万冊の電子ブック、約1,000のデータベースが整備されています。これは、日本の大学図書館と比較すると段違いの数字です。

もちろん、落ち着いて学習したい利用者向けにはサイレントスペースや大学院生用のデスクなども提供されており、全ての利用者がお互いに気を使うことなく、気持ちよく滞在可能な体制が整備されています。

各対応窓口では学生スタッフが雇用されており、一時対応を行っています。対応が難しい場合に専門の職員へ引き継ぎます。

私の訪問直後の2010年10月には館内一部のリノベーションが行われました。PC、テクニカルサポートスタッフ、グループワークスペースなどが拡張され、より快適な図書館に変身しているようです。

キャンパス内には、図書館以外にも複数のテクニカルセンターを整備しており、学生はいたるところで機器の利用、サポートを受けることが可能です。



[広い作業スペースとPC]



[スタジオ]



[講習室]



[ニューヨーク大学 ボブスト図書館]



[カリフォルニア州立大学 サンマルコス校 ケロッグ図書館]

## カリフォルニア州立大学 サンマルコス校 ケロッグ図書館

Kellogg Library (California State University San Marcos)  
333 S.Twin Oaks Valley Rd., San Marcos, CA, United States <http://biblio.csusm.edu/>

図書情報課 相田 芙美子

Kellogg Libraryは、小高い丘の上に広がるキャンパスの入口すぐ左手にあります。5階建てですが、丘の斜面に建っているため1階と3階に出入口があります。この図書館では、学習、研究、教育のサービスがひとつの建物で利用できるようになっています。必要なサービスごとに、重たい荷物をおかかえてキャンパス内をさまよう必要がありません。

例えば、レポートの課題をしたければ、PCと資料が必要です。

PCは専用のPCコーナーの他に、ノートPCを時間単位で借りられるサービスがあります。そして、資料など調べていてわからないことがあれば、Research Help Deskにいる先輩の学生スタッフが相談にのってくれます。より専門的なことであれば専門の司書から更に詳しいアドバイスがもらえます。また、図書館のWebサイト上にあるチャット式の質問フォームで司書に直接質問をすることもできます。さらに、写真や映像をレポートに使用したければ、2階にあるMedia Libraryに行くと、写真の加工や映像の編集ができる専用の編集ソフトを使えるPCが利用できます。必要であれば、デジタルカメラやビデオカメラも借りることができます。

また、これだけでなく、PCは使わずに静かにゆっくり集中して考えたり資料を読みたければ、5階に読書室があります。座り心地のよい椅子やソファと間接照明が気持ちを落ち着けてくれます。加えてこの他にも、Math LabとWriting Centerという施設が入っていて、予約をすれば数学の学習サポート、論文の執筆方法についても1対1で先輩か

ら分かりやすく教えてもらうことができます。さらに、勉強や研究に集中して疲れたとき、気分を変えたいときは、丘の向こうに広がる景色が見渡せる休憩コーナーや、3階の入口を出た横にスターバックスがあります。

この大学は州立大学なので予算が潤沢にある訳ではありません。しかし、2004年に建て替えをするときに、利用者の視点にたち役に立つサービスと施設を考えた末にできたのがこの環境でした。図書館、学習・研究支援の部門、ITサポートの部門の3つが協力をして作り上げたものです。ラーニング・コモンスの成功事例としてもこの図書館は有名です。それは、建物や設備だけではなく、利用する人のことを考えられたサービスがよい形で共存して提供されているからです。

大学ごとに学部・学科、キャンパス事情(周辺環境も含む)、予算など置かれた状況が違います。それは国が違っても変わりません。いろいろな制限はありますが、大事なことは、毎日、その大学で営まれている生活(授業や、自己学習、研究)に役に立てるもの・サービスを、利用する相手のことを考え提供できているかどうかではないでしょうか。

西南学院大学図書館も、学生・教職員の皆さんのより役に立つものを、図書館だけではなく大学全体で考えていきたいと思っています。

[カリフォルニア州立大学 サンマルコス]

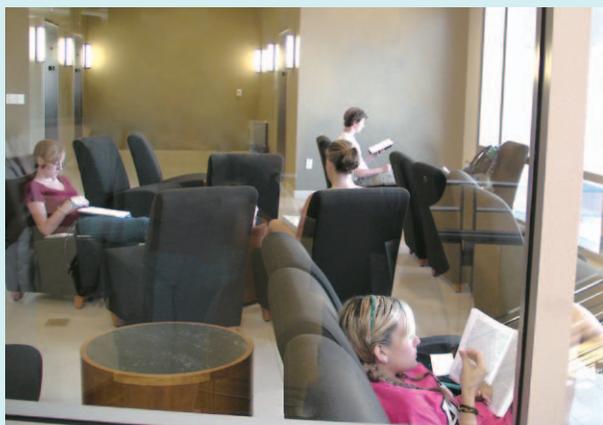
1989年に設立。サンディエゴから北50km、ロサンゼルスから南150kmに位置する。学生数は約9,500人。学部は芸術・科学、経営学、教育学、看護学の4つ。



[読書室(5階)]



[PCコーナー(正面入口横)]



[休憩コーナー(5階)]

# 図書館の



図書情報課 小副川 明子

図書館の膨大な本。この本はどうやってこの書架(本棚)まできたのか…こんな疑問を抱いたことは無いでしょうか。今回は本が書架に行き着くまでを追いながら、教職員にもあまり知られていない図書館スタッフの業務を紹介します。カウンターの奥に広がる事務室で何が行われているのでしょうか。

## 図書館

構 成 : 本館 + 法科大学院分館  
 スタッフ人数 : 36人(男女比10:26)  
 年間受入冊数 : 約23,000冊  
 図書・雑誌費年間支払額 : 約227,620,000円  
 現在蔵書冊数 : 約1,017,770冊  
 雑誌タイトル数 : 約13,200タイトル

## 図 書

### ① 依頼受付



教職員からはメール、Web など、学生からはリクエスト用紙で毎日たくさんの購入依頼を受付けています。受付時に、発注(注文)する業者を決定。図書館は丸善・紀伊国屋・ジュンク堂書店・大学生協等の他に、多くの書店や古書店と取引があります。書店により品揃えが違うので、ここはスタッフの経験と知識で、依頼にぴったりくる書店に決めます。

各業務に専門のスタッフがいます。事務室の大きさは学内で1、2を争います。

### ② 発注

受付時に決めた書店に発注しますが、その前に「重複調査」を行います。同じ本を何冊も買わない為に、依頼があった1冊ずつを、所蔵データを検索して調査します。同じ様に見えて違う本も多いので、出版年・出版社・版など丁寧に調べます。非常に重要かつ時間のかかる作業です。価格のチェックも欠かせません。中には1冊40万円する高額なものも。予算オーバーにならないよう神経を使います。

全ての確認が済んでから発注です。「発注票」と呼ばれるものを作成します。この発注票を書店の営業さんに手渡ししたり遠方の書店には郵送します。書店は発注票の情報を見て本を手配するわけです。



図書発注/整理票

### ④ データ入力

NDC日本十進分類法、日本著者記号表、英米目録規則、NACSIS-CATコーディングマニュアルはスタッフのバイブル。



ここではOPACで検索できるようにする為、本のデータを入力し、書誌を作ります。OPACで検索すると本の詳しい情報(著者や出版年など)が出てきますね。これを書誌といいます。書誌に、請求記号(分類記号)、資料番号、価格、所在、などのデータを添付入力していきます。書誌作成や分類には全国共通の細かい規則がありスタッフは日々これと格闘し、正確で見やすいデータを作成しています。時には他大学と連絡を取り合って相談したり、お互いの間違いを指摘しあったりも。また、データ入力をした時点で、図書館の本は学院の資産として登録されます。

### ③ 納品

郵送、配達などによって発注した様々なジャンルの本が届きます。月約2,000冊です。発注した本が間違いなく届いたか、請求書の記載に不備がないかをチェック。



バーコード(特注)

その後、バーコードを図書に貼り付けます。和書は1、洋書は3から始まる10桁の数字です。図書館資料はこのバーコードと請求記号=背ラベルで管理されています。大量に消費されていく為、約20,000枚が常備されています。バーコードは西南特注!

本は「トラック」と呼ばれる移動式小型本棚に載せられ、トラックごとに処理の手順を踏むため、事務室内には常に70冊ほどの本が乗ったトラックが行き来しています。



## ILL (Inter Library Loan 図書館相互貸借)

全国の図書館がネットワークを構築し、自図書館に無い資料の貸借を行っています。この制度のおかげで図書館は、無限にある資料の収集から、ある程度開放されるのです。

西南に無い資料やその複写の取寄せ→教員・学生からの依頼を受けると、スタッフが全国のどの図書館が所有しているのかを調べ出し、申し込みます。日本に無い場合は海外の図書館とメールなどで連絡を取ることも多々あります。海外の場合、コピー料・送料の支払いにレート換算など煩わしい作業が発生。これを円滑にする為にIFLA(国際図書館連盟)発行のバウチャーと呼ばれるカードを使用します。つまりお金の代わりです。西南学院大学図書館はIFLAからこのバウチャーを購入し、資料を送ってくれる図書館へバウチャーを郵送するというわけです。



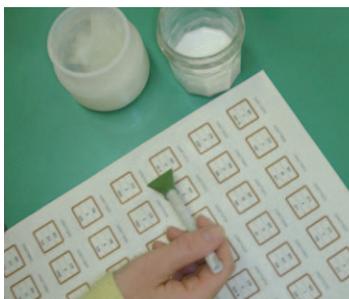
バウチャーカード

## 5 装 備

データ入力した本に装備をします。本の大きさ・装丁は多様を極め、これらに標準の装備をするのはまた一苦勞。時には貴重書を保存する箱を、劣化しにくい中性紙を使って手作りしたり…。なるべく本を傷つけないように、長く保存できるように知恵を出しあう話合いが絶えません。

カバーと帯を取り、蔵書印・小口印を押印、表題紙に請求記号を書き込み、期限表を張り付けてから、データ入力時に入力した請求記号を特注のラベルに印刷して背に貼ります。和書は茶色、洋書は緑色です。

このラベル、本の利用により剥がれや色褪せが起こります。これを防ぐ為に、印刷したラベルの上に専用のコーティング剤を塗ってから、専用の強力な糊を使って本に貼り付けます。



ラベルのコーティングの様子

初心者のコーティングは凹凸が、これがまた汚れの原因にもなります。熟練になると何も塗ってないかのような滑らかさ！



装備に使うグッズ。ラベル・シール・接着剤・印・テープなど、多種多様です。



## 6 配 架

返却が多い試験期間などは1日2回することも！

データ入力・装備を終えたら、注文者にメールで利用可能になった旨を連絡します。それからようやく本を配架(書架に並べる)します。配架は、その日に利用可能になった図書と返却された図書を合わせて、1日1回スタッフ総出で手作業により行います。その為、分類や書架の配置、装備などは係以外のスタッフも熟知しておく必要があります。

こうして皆さんが見慣れている書架に本が行き着きます。ジャンルも大きさも状態もバラバラで納品された新しい本たちが、データを与えられ、分類されて、毎日書架に追加されているのです。

## 雑 誌

雑誌も図書と同様に、郵送・配達によって図書館へ納品され、データを入力してOPACに反映させます。しかし図書とは購入の仕方が異なり、多くの雑誌は年間契約で購入しているため、新号が出版され次第、自動的に図書館へ送られてきます。海外から直接購入しているものもあり、海外書店への支払い(外国送金)も発生。郵便口座に代金を振込んだり、銀行に小切手の発行を依頼してもらって送付したりします。



製本前(手前)と製本後(後ろ)の雑誌

※購入した雑誌は一定期間書架に並べたあと、短期保存と長期保存するものに分かれます。短期保存は一定の保存期間を経て廃棄し、長期保存のものは専門業者をお願いし「製本」します。こうすることによって劣化を防ぎ、長期保存が可能になります。

## 閲 覧

図書館の窓口。利用者からの様々な質問に答えます。

皆さんが一番馴染みのある部門ではないでしょうか。カウンター業務です。西南学院大学には教職員、学部学生、大学院生、留学生、科目等履修生など多くの身分の人々が在籍しています。その身分によって利用規定が異なります。閲覧スタッフはそれぞれの方からの利用規定や所蔵資料についての質問に答えます。貸出返却以外にも様々な業務があります。

## そ の 他

**遡 及** 図書館にパソコンが無かった時代、データはすべて手書きでカードに記入し、保管していました。その時代の本のデータを作るのが遡及という作業です。古い本が多く、データ登録が新書に比べて難しいため、勉強にはなりますが骨が折れます…。

**出 張** 実は多いのが出張。西南学院大学図書館は、私立大学図書館協会や九州地区大学図書館協議会などに所属し、書籍の電子化、資料の分担保存、論文のデータベース化、会計処理等について情報を収集し、運用に反映させています。海外の大学図書館へ視察に行くこともあります。各研修・セミナーにも出席します。

**在庫調査** 約140,000冊を1年分として毎年1回、全スタッフで在庫調査を行います。通常業務の合間に10日間かけて、データ登録した図書が実際に書架にあるかを1冊1冊調査していくという、図書館らしいが一般にはほとんど知られていない業務です。行方不明図書の検索・発見だけでなく、資産管理も目的としていますので、公認会計士による現場確認も行われます。

## 「ゲオルグ・ジンメル『ズールカンプ版全集』」(全24巻)

Georg Simmel ; herausgegeben von Otthein Rammstedt Suhrkamp 1989-[134/9Si5/1-]

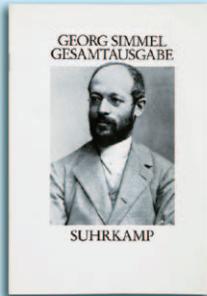


写真1:ゲオルグ・ジンメル



写真2:第16巻 タイトルページ



写真3:第16巻 Der konflikt der modernen kultur

→ これは19世紀後期から20世紀初期にかけて活躍した社会  
← 学者ゲオルグ・ジンメルのズールカンプ版全集(全24巻)の  
写真である。ゲオルグ・ジンメルは、社会学史のうえではE・デュ  
ルケムやM・ウェーバーとともにA・コントやH・スペンサーらの  
第一世代の後を継ぐ、第二世代の研究者に分類される。ただ、G・  
ジンメルは、E・デュルケムやM・ウェーバーが、現代社会学に  
おける体系的思考の中核を占める理論研究の創始者として繰り  
返し言及されつづけてきたのに対し、彼の社会学的研究は体系的  
を欠いた断片の累積とみなされ、天才的な閃きに基づくいくつか  
の優れた業績は知られているものの、その研究はこれまでマージ  
ナルなもの(山之内靖の指摘)と考えられてきた。

ところが、ニッチ研究の深化とその社会科学への適用をめ  
ぐって、G・ジンメルは再評価されるようになり、1990年代の初頭  
頃「ジンメル・ルネサンス」とでも呼ぶべき流行が生じた。この流  
行に対応して、これまで日本では断片的に翻訳されてきたジンメ  
ルの著作が復刻集成されて「ジンメル著作集」(白水社 全7巻)  
として刊行されることになった。

ドイツ語によるズールカンプ版全集(全24巻)ほどには網羅性  
はないものの、これによりG・ジンメルの研究のかんりの著作を日  
本語で容易に読めるようになった。

現代イギリスを代表する社会学者A・ギデンスも、G・ジンメル  
の研究に言及して、次のように述べている。E・デュルケムやM・  
ウェーバーと比較すると、比較的規模の小さな集団における社会

化の諸形式を考察する研究者であると考えてきたが、少し研究し  
てみるとそうではなくG・ジンメルにも哲学や歴史への関心が存在  
し、M・ウェーバーと同様に、ダイナミックで博学な歴史的变化を  
考察する思想家・哲学者としての側面を持っていたことに驚かさ  
れたと。A・ギデンスの指摘にもあるように今後は、G・ジンメルの  
文化論・芸術論・宗教哲学さらにはジェンダーの哲学などの研究  
が取り組まれ、深められていくものと思われる。

今後G・ジンメル研究の底本の位置を占めるであろう「ジンメル  
全集」(ズールカンプ版 全24巻)の刊行が完結しつつある。写  
真は、初期の哲学的著作である第1巻「カントの物理的単子論」か  
ら始まって第23巻「後期晩年の著作集」をとった映像である。地味  
ではあるがしっかりとした製本がなされていることがわかる。最終  
巻が加われば完結する。喜ばしい限りである。その全巻が、西南学  
院大学図書館に収蔵されることになるのも嬉しい。また、前述の翻  
訳集「ジンメル著作集」も、西南学院大学図書館に、全巻収蔵され  
ているので、「全集」と「著作集」の読み比べも興味深い作業になら  
う。この度、この紹介文を書くに当たり「著作集」のいくつかの部分  
を再読してみたが、墮落する世俗の神としての貨幣の論点や、21  
世紀における生と魂の救済の論点、ジンメルの進化論への関心  
等はさらに詳しく検討されるべき論点であろう。

#### 参考文献

居安正著『ゲオルク・ジンメル:現代分化社会における個人と社会』東信堂、2000年  
山之内靖著『ニッチとヴェーバー』未来社、1993年  
早川洋行著『ジンメルの社会学理論:現代的解読の試み』世界思想社、2003年

### 編集後記

新入生のみなさん。入学おめでとうございます。今号では、普段見えない  
図書館の奥を少し覗いています。資料が皆様の手が届くまでの作業  
をご覧ください。ブックレビューは、教職員からのイチ押し1冊です。  
充実した大学生活を送るためにも図書館を十二分に活用してください。  
職員一同お待ちしております。

### 西南学院大学図書館報 No.170

2011(平成23)年4月30日発行

編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511

福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL (092) 823-3426

<http://www.seinan-gu.ac.jp/library/>